

平成30年度和歌山県文化功労賞

さ やま かず お
佐山 和夫

住 所 和歌山県田辺市
出身地 和歌山県田辺市
生 年 昭和11年

◎ 業績及び経歴

和歌山県立田辺高校より慶応義塾大学文学部英文学科に進み、昭和34年に同大学を卒業後、会社員や高校教師の職を経て、昭和52年に「田辺イングリッシュ・アカデミー」を設立し、学校運営の傍らで、執筆活動を始める。

昭和59年に、大リーグの外にあったニグロ・リーグの大投手を描いたノンフィクション作品『史上最高の投手はだれか』を発表。この作品は、多角的な追跡調査をもとに書かれた作品として高い評価を受け、第3回潮ノンフィクション賞を受賞、またアメリカ野球学界でも賞賛され、野球殿堂で永久保存されている。平成7年には、アメリカ文化の紹介に貢献したことに与えられるジョセフ・アストマン賞を日本人として初受賞。平成10年には、ニグロ・リーグについての著作と翻訳に関して、アメリカ野球学会のトウィード・ウエップ賞を受賞、さらに平成19年には、『20世紀最高のスポーツマンはだれか』の著作により、ペンシルベニア州ジム・ソープ市の名誉市民号を授与されるなど、国内のみならず米国でも功績が高く評価される。

また、野球事情に精通した氏は、(公財)日本高等学校野球連盟顧問も務めており、野球界の発展にも大きく貢献している。

スポーツを題材にしたものが多数を占める氏の作品の中で異彩を放つのが、18世紀末に串本町に來航したアメリカ船レイディ・ワシントン号の史実を描いた『わが名はケンドリック』である。作品発表後も氏は日米双方で関連する資料の収集調査を続け、平成27年には、より詳細に記した『ペリーより62年も前に』を発表した。氏は「日米交流の原点を知ってほしい」と、この史実の探求をライフワークとし、現在も精力的に活動をしている。

さらに、平成27年発表の『金栗四三-消えたオリンピック走者』は、2019年のNHK大河ドラマ「いだてん」のきっかけとなるなど、氏の作品は各所に影響を与えておりその功績は多大である。

■現在

- ・ノンフィクション作家
- ・アメリカ野球学会会員
- ・公益財団法人日本高等学校野球連盟顧問
- ・選抜高等学校野球大会21世紀枠特別選考委員
- ・阪神甲子園球場歴史館顧問
- ・NPBゴールデン・スピリット賞選考委員

◆主な表彰歴等

- | | |
|-------|-----------------|
| 昭和59年 | 第3回潮ノンフィクション賞 |
| 昭和59年 | 和歌山県文化奨励賞 |
| 平成5年 | 第4回ミズノスポーツライター賞 |
| 平成7年 | ジョセフ・アストマン賞 |
| 平成10年 | トウィード・ウエップ賞 |